

的態度に向つて邁進せんとするものである。

然るに各新聞社側には於ては報知社に於ける事件を目して恰も正進會の全意志なるが如くに強辯しつゝある事は今に至つて初めて日新聞其他二三の新聞が報知社に於ける事件をして徒らに法律を云々して虚飾誇大に報道し尙ほ其の觀念の上に立脚して周章狼狽の結果高壓的對策を講ぜんとするに至れる如きは我等の其の意を得るに苦しむと共に其の心事の愚を嗤はざるを得ない所である我等の主張の正當なる事は本會々員にあらざる所の日日新聞社従業員諸君に於て同一の要求を提出し其の拒絶に會ふや直ちに敢然として罷業的態度に出でたることに依つても明らかに知り得られる道は獨り本會員の主張のみならず活版工否な全労働者の境遇が欲求するものであることを事實の上に裏書して餘りあるものである。

今や新聞社側は所謂新聞聯盟協會なるもの、力に依つて我等を脅威すべく權策只だ努めつゝあるが我等は我等の主張の正當を信する限り強硬は我等の主張を固持して止まざるものである。

己に諸君の知らるゝ通り我等の勝利は萬朝報社に於て得られた吾等は正義の主張が最後の勝利を得べきを當然信するものであるが故に進んで新聞社側の迷妄觀念を切破すべく層層の努力を必要とするものである茲に於て會員諸君は勿論會員外の同志諸君は吾等の運動を活潑ならしむべく更に奮起せられんことを切望するものである。

大正九年十月十一日

——新聞——

正進會

**組合同盟會の態度** は友愛會を主唱者として組織されある労働組合同盟會は十三日夜友愛會本部に所屬組合の緊急代表員會を招集して、正進會の後援を議題となし、協議を重ねたる結果、各團體より義捐金を勢り、物質的に之を援助する傍ら一社にても多く聯盟を脱退せしむべく努力すべきことを申合せ、各新聞社對正進會の爭議に關して左の如き宣言を發したり。

宣 言

——都下各新聞社對正進會爭議に對する——

九月廿六日の報知新聞社事件に端を發したる都下各新聞社對新聞工組合正進會の爭議は、其の後、無誠意なる資本主側に態度によつて益々擴大し、東京日々新聞社に於ける文藝工全部の無資退社(九日)となり、讀賣新聞に於ける植字文選工大多數の罷工(十日)となり更に他社にも及べんとする形勢にあり。事の顛末を聞くに、昨年の罷工惨敗の後を受けて市内一般印刷工に比し格段なる待遇の下に今日まで隱忍し來たれる正進會々員が、其所屬各社に對して譲て提出しありし八時間二部制の要求を此の際完全に實現せしむべく報知新聞社事件を機會に活動を始めたるに此の正當なる要求を完全に容れたるは今日迄の處萬朝報社の一社のみにして『日々讀賣』の二社は、財界恐慌の影響を受けて不安を感じつゝある労働者の現状を逆に利用し、高壓手段に出で、一舉に我が労働者を懼伏せしめ、徐に組合切崩しを策するところ總て最近に於ける諸他の勞資紛議とその軌を一にし、而して報導の機敏と批評の嚴正とを以て社會の木鐸たるべき新聞は、その資本主義的組織力を利用して、罷業の真相を社會に秘し、世人をして是非を判するの資料を皆無ならしめ、以て多數の労働者を闇から闇に葬り去らんとする陰險陋劣最も惡むべきものあり、斯の如きは正義と人道とを念とする何人と雖も堪ふる能はざる所、況んや吾等同じ階級意識に於て團結し聯合する同盟會は、我が肉身の一部たる正進會のかゝる逆境を座視すべからず、全労働階級の名に於て、起つて彼等横暴なる資本家と戦ひあらゆる手段によつて此の正當なる要求を貫徹せんが爲に茲に斷乎として宣言す。

労働組合同盟會は組合の一員たる正進會の罷業を極力援助せんことを期す。來れ、全國労働者よ、來つて吾等と行動を共にせよ。

大正九年十月十三日

労働組合同盟會

紡績労働組合 東京電氣及機械鐵工組合

汎勞會 工 人 會

啓明會 日本交通労働組合